

学校名	柳町中学校	
ホームページURL http://www.city.nagano.nagano.jp/school/yanagimachijh/	生徒数 782名	
(1) 題材名 「地域の方々から学ぼう」 テーマの分類(-ア、 -エ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください 学級・ <u>同一学年</u> ・3～4年・5～6年・学校・ その他() 該当学年 中学3年 (回答可能な場合)	
(3) 活動のねらい 地域のいろいろな方々とかかわる中から自己課題を設定し、追究を深めることを通して、問題解決能力を育成するとともに、「柳中の心(自由、創造、思いやり)」「学校教育重点目標」の中で、特に自分自身と立場の違う人のことを思いやる心を育み、21世紀の共生社会の中で生きる自己の生き方を問う礎としたいと考え、題材を設定した。		
(4) 活動の実際(活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・ 第1～5時は、学年・学級単位で、オリエンテーションと外部講師をお願いしてパネルディスカッション「これからの共生社会における私たちの生き方」を行い、生徒に自己課題の芽をつくらせ、講座を選択させた。 ・ 第6～12時は、講座内に分かれ、講座内のオリエンテーション、講座内での基礎学習(交流相手に対する基礎理解等)を行うとともに、全校一斉に行われた「ふるさと長野体験学習デー」(第13～18時)に向けて、交流場所に事前訪問し、当日に向けての事前準備を行った。 ・ 第19～28時は、体験学習デーでの交流体験から課題設定し、追究、まとめ、講座内発表会を行った。(さらに体験を深めたいものには、この期間に体験学習を行った。) ・ 第29、30時は、講座内から代表者を選び、学年学習発表を行う予定である。 時数(30)		
(5) 指導体制(校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・ 総合的な学習の日は、日課を昼食、学活終了後第5限を開始し、第5、6限に実施する。 ・ 学習の立ち上げ段階におけるパネルディスカッション、各講座内で必要に応じて、外部講師をお願いし授業を行った。 ・ 講座編成について、7学級を10講座に、A老人福祉センターで学んでおられる老人との交流、B～Dデイサービスセンター等に來られる介助を必要とされる老人との交流、E障害をもった方との交流、F心身に障害を持った子供たちとの交流、G保育園の園児との交流、Hアろう学校との交流、Iア養護学校との交流、J外国の方との交流。なおH、Jの2講座はTTによる指導。		
(6) 指導上の留意点(時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・ 平成12年度の時間数に関しては移行措置や指導要領の下限をとるなどの方法で、各学年68時間確保した。13年度に関しては、技能教科の時数をすべて新学習指導要領に合わせて確保していく方向である。 ・ 体験学習デーは、学年ごと外部の保険に加入した。		
(7) 評価(基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・ ポートフォリオ評価を導入にし、生徒と講座担当の教師との対話によってつなぐ評価を大切にした。 ・ 保護者への連絡として、コメントを入れる方法で学期ごとの他の通知票といっしょにカード式の通知票を発行した。 ・ 指導要録には指導上参考になる事柄の欄に記入する。 ・ 生徒のレポートは前期後期題材のどちらか一方を選択し、生徒研究集録「自分さがしの旅」に掲載する。		
(8) 成果と課題 ・ 講座選択のためにパネルディスカッションを取り入れたことや体験学習を通しての課題設定は、生徒の自己課題づくりには有効な手立てだと考える。		

- ・ 総合的な学習の時間を交流を中心とした学習を行うことは、従来のイベント的な交流活動から、実体験を通しての相手の立場を考えた交流へと高められる。また、社会科の公民分野や同和教育で、人権について考え深めてきている3年生にとって、適切な題材だと考える。
- ・ 生徒の問題解決能力を育成するためには、どのような力をはぐくむべきか分析しながら、各題材ごとに評価の観点を決めだしていくとともに、その観点から生徒自身がポートフォリオを作成させていく必要を感じる。

テーマの分類 横断的・総合的な課題（ ア 国際理解 イ 情報 ウ 環境
エ 福祉・健康 オ その他） 児童生徒の興味・関心に基づく課題 地域や学校の特色に応じた課題